

季刊 ジャネット Ja-Net

No.19

2001年10月25日発行

View from the Other Side	3
あちこち日本語ご紹介 [福井県 福江市]	4
あちこち日本語ご紹介 [モンゴル ウランバートル]	5
教材紹介 『トピックによる日本語総合演習』	6
『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』	7
『日本語教育のための誤用分析』	7
なんでも情報BOX	8

Ja-NetはJapanese Networkの略です。[にほんご]を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

「日本事情」ってなんだろう

福岡日本語センター 校長
岩崎隆次郎



日本事情と言う言葉はどうしてできたのだろう。水谷修さんは「西洋事情」の引き直しではないかと指摘されなると頷いた。18世紀新井白石が宣教師シドッチの尋問を記録した「西洋記聞」、福澤諭吉が明治2年に出版した「西洋事情」と見てくると、日本的西洋見聞記の姿が見えてくる。「欧米回覧実記」は岩倉使節団の目的がはっきりしているだけに、単なる印象記とならず、今読み返してみてもおもしろい。

私が14年前に日本語学校を始めた頃、カリキュラムに「発音」と「日本事情」を組み込むことにした。前者は自分がアナウンサーだったので、スタジオ方言のようなアクセント重視の発音教育に疑問を持っていたのと、後者は言葉の持つイメージの広がりを持たせるにはどうしたらよいかという二つの課題を考えたからである。発音は単語よりも文の意味が伝わるような訓練を入れることで一応の目途をつけた。しかし「日本事情」は簡単ではなかった。

何を教えるのか

日本語学校の最近の傾向は、日本語を通じて日本を知らせることを目的とするものと、予備校的色彩を強めるところに分かれている。しかし日本語学校が大学進学希望者を抱えているため、大学受験対策を大なり小なり取り入れなければならなくなっているから、なおさらバランスのとれたカリキュラムとは何かを考えなくてはならなくなっていると思う。言語は文化であり、歴史・風俗・習慣の総和なのだから言葉だけ覚えればいいということにはならないはずだ。その割に何を教えるのか明確になっていない。

生徒は何を求めているのだろう。

就学生の現状から見るとその大半はアジア、それも中国・韓国に偏っているから彼らの目的を極言するなら将来の経済生活

を豊かにしたいということにある。「高度成長の秘密は」とか「バブル崩壊後の建て直しは」と聞かれたらあなたはへと答えるのだろう。

私たちは「日本事情」の目的を「現代日本を理解させること」に置いた。

その手がかりとして現在作成中の「日本事情 中級」教科書の基礎資料をつくるために行った卒業生からの聞き取り記録を採録しておく。

講義の聞き取り

人名、国名、地名は先生の発音と自分が知っているものとあまりにも違いが大きいのでわかりにくい。

理科系の先生はひらがなやカタカナで板書するのでわかりにくい。例えば「微分・積分」を「ピブン・セキブン」。図書館の利用の際の検索の基礎知識。このほかわからないことの調べ方は知っておいた方が便利。

授業中に「ベニスの商人」が比喩に使われわからなかったが、調べたらよく知っている話だった。童話や日本の昔話なども名前だけだと外国人はわからない。

講義での基礎知識

日本人の学生が知っていて、自分たちが知らないこと：明治維新から今日までの日本の歴史と有名人の名前、経済用語、例えば売り掛け・買い掛け。

母国で教わったこととの歴史的評価の違い。例えば伊藤博文・福澤諭吉・第二次世界大戦・日中戦争など。西欧近代思想の流れ、特にフランス革命関係、法治主義、人権など。

大学の日本事情

専門外の先生がやっているが、内容がディベートだけであまり役に立たない。(教え方の問題のようだ。- 記録者註)

時事的な事柄を取り上げ、ビデオも使ってわかりやすく、おもしろい。

生活関連では、問題が出なかった。日本語学校を経て大学に行った生徒なので生活基盤があるためと思われる。

大学院での人間関係

大学の学部では、学生は集団の中の一人だから孤独感はあるとしても、人間関係の煩わしさはないといえる。

一番違うのは人間関係が絡んでくることです。私のいる研究室に一人移ってきた人がいました。2年生だったので不思議に思って聞いたら、周りとうまくいかないということでした。うちの研究室は冷蔵庫が共有で使えますが、お菓子を入れていた人が「食べた？」とその人に聞いたのですが、暫くして日本人の学生が入ってきたのですが、日本人には聞きませんでした。その人は「中国人だと思って」と怒りました。結局その人は来なくなりました。

日本人の学生は親切だし付き合いやすい。でもものを尋ねるときには知らないことは「知らないから」と言って聞かないと、教えてくれない。何か気配りがあるのだろうか。

日本人のウチとソト

日本人はウチとソトの使い分けがあるという意見が多かった。日本語学校で日本語だけを勉強して大学院に入ると、問題が起こるので、日本語学校で「ウチとソト」を教えてほしいと指摘された。

中国で日本学の教室では中根千枝さんの著書は「必ず読む」ように言われた。日本人を理解する手助けになる本を紹介してほしい。

論文で困ること

作文と論文の違いがよくわかっていなかった。

漢字の熟語が同じだと思いがち。意味が全く違って困った。

中国では引用を明示しない。

中国では、論文はお手本通りでない点をくれない。自分の考えを書くことに慣れていない。批判と悪口の区別がわからなかった。

その他

日中戦争の評価では政治家の考えが変わらないと、ギャップが大きい。

日本人の日本人に対する態度と、アジア人に対する態度は理解しにくいものがある。

教師の側の課題

「日本事情」についての各年代の教師の討論でわかったのは学校で「現代史」を勉強した人がほとんどいないということだった。部分的には現代史の断面に系統的に全体像を概観したことはないのである。また、日本事情を教える際に注意すべきことは、相手の文化を理解し尊重するという当たり前のことである。考え方の違いがルールの違いとして現れることが多く、それが差別となり易いからである。優れたフェミニスト達が鋭く指摘するように「区別は最も悪質な差別である」。

統計の数字は毎年変わる。だいたい5年毎を目安にとればよ

いが、教師は常に新しいものを用意した方がいいだろう。政府統計はネットで検索できる。数字を見るときには発表時期の新しいものを優先する。例えば集団的な稲作の日本での始まりは前3世紀頃といわれてきたが、三内丸山遺跡の発掘で一気に時代が遡ったように「絶対」という言葉も「現時点では」という限定詞が付いていることを念頭に置きたい。

「異文化」について

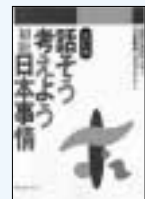
「異文化」という言葉について考えたい。「異文化」は16,7世紀の大航海時代を思わせる「異端」「異教徒」などと並んでしまう。「異人」の元の意味は「人間より優れた人」が始まりだが、それが転じて外国人にも使われることとなった。漢語の素養のあるそして西欧文化採り入れに熱心だった明治人には元の意味も含めて使われていたといえるだろう。最近では「異文化間」と「間」をつけて使われているのは進歩と思うが「多文化」という人もあるし、少なくともこの方が違和感がないだろう。用語というの一度一人歩きし出すと直すのが大変なのだから、慎重であるべきものと思う。

日本語学校と大学は「日本事情」の任務が異なっている。「異文化間交流」といえば学問的だという錯覚があるのではない。日本語学校では、進学したときに必要な「ものの見方・考え方」で母国と違う点を指摘することが大切になる。来年度から大学入試に新しい試験が採用されるが、受験用知識を詰め込むのは受験では有利でも、大学の講義を受けるには非生産的だと思っている。日本の受験制度がマニュアル人間を大量に作り出したことが反省されているが、同じ轍を踏まないようにしたい。大学の日本事情では、トピック中心のディベート形式のものが多いが、不安になるのは、学生たちの知識と考え方のレベルをどう見てくれているのかという問題である。私個人の考え方からすれば日本語学校ではなおさら現代史の鳥瞰図を捉えさせておきたいと思うのだが...

最後にボランティア教室で教える教師の皆さん、「日本事情」についてお一人で悩むことがあったら遠慮なく電話を下さい。福岡市では行政が大学、日本語学校と協力してボランティアで教える教師のための講座を開いています。数は少ないがこうした取り組みは広がってきています。国際化というのは一部だけで対応できるものではないのだから。(福岡日本語センター tel:092-481-7140 午前中がよい)

好評発売中
話そう考えよう
初級日本事情 改訂版

B5判 72頁 1,000円
福岡日本語センター「日本事情」プロジェクト著



岩崎隆次郎

1932年東京、新富町生まれ。1954年東京大学国文科（江戸文学専攻）卒業。同年NHKにアナウンサーとして入社。1987年定年退職。同年福岡日本語センター設立、現在に至る。



このコラムでは 学習者の視点での話題をお届けします

VIEW FROM THE OTHER SIDE

「国際交流」という言葉から思うこと

渡辺ジョセリン



日本語での会話

初めて研修生として日本に来た時、私は『日本語の基礎』を使って 正しい日本語 ていねいな日本語 技術(テクニカル)用語を学びました。その時学んだ日本語が、その後の日本での生活で非常に役に立ちました。外国人が日本に住むにあたって近所の人と日本語を使った交流は、有意義な生活をするには大切なことだと思います。例えば以前足立区のボランティアに参加したとき、一緒に活動した日本人の主婦達と日本語で話すことで、ごく普通の人達の生活を垣間見ることができました。話題は子供の教育、スーパーマーケットの安売り情報、嫁姑の問題、季節ごとの風習など生活に密着した事柄です。

私のゴールデングループ

私の住んでいる北千住は東京の中では比較的下町に属しています。大家さんは日本的な絵画を近所の人に教えていて私も参加しています。一緒に参加している人達は子育ても一段落した高齢者の方が多く、これから何か新しい事を学ぼうとしている人生に積極的な人達です。

そこで一緒に学びながらいろいろ話をする時、皆さんはとてもきれいな日本語を使い、昔の東京のことや料理のことなどを教えてください。そこはまた、私の日本語の力がどの程度あるか試される場でもあります。主人や友達など限られた人以外との会話は私の日本語の上達にもなりますし、日本のちょっとしたことの理解の一助になるのです。「え！ゴールデングループの意味は何か？って」それは年齢もそうですが、皆さんは自分で思っていること、感じていることを素直に話してくれるので、そのことがお互いの心を豊かな気持ちにさせてくれます。これは私にとって大切なことなので、そういう意味で「私のゴールデングループ」と自分で呼んでいるのです。

日本の文化の味見

毎月1回程度ですが生け花(草月流)を学んでいます。学び始めてもう7年近く経ちます。その間みんなで展示会を開催したり、先生方の発表会で作品を見せて頂いたり、日本文化の一端に触れることができました。この教室には中国、韓国、ブラジル、フィリピンなどいろいろな国の人がいますので、生け花を通じてその国の人の考え方、個性を知ることができました。生け花はいまや国際的な文化になった感がありますが、生け花そのものを理解することも楽しいし、大事で

すがそれ以上に花を生けるその過程(先生とのやり取り、友達の素直な意見など)が各国の人達との更なる交流の手段になる事を痛感しています。



ボランティアを通して

現在、私はボランティアやパートタイムワーカーとして、日本に住んでいる外国人のためのカウンセラーをしています。外国人が日本で生活する上で寄せられるさまざまな問題(家庭内暴力、子供の教育、国際結婚の問題、病気など)を解決するために、弁護士、医者、福祉事務所、区役所の方々やスタッフとの話し合いを持つ必要がでてきます。最初のころは日本語でうまく説明できなくていろいろ迷惑をかけたことも多かったのですが、私にとって発生する問題とそれを解決するための過程を通して、日本の社会の一面を理解することができました。

最後に

国際交流は日本を始めどの国でも叫ばれていますが、私が日本で生活して感じたことは「その国に馴染もうとしてみる」とが国際交流の第一歩だということです。そのためには(これは日本の場合ですが)

日本人となるべく日本語で話をする。

自分が住んでいる地域の人達といろいろな手段で交流を持つ。

日本の伝統文化に触れてみる。

などが挙げられるのではないのでしょうか。しかしこのような活動ができるためには夫など家庭での理解が欠かせません。また自分が好きなこと(私の場合は学校で教えること)を通してこれらのことができればもっと幸せです。これからも更に日本を理解する努力をしますが、「私はフィリピン人である」という自分のアイデンティティを忘れず新しい文化(日本の文化)とバランスを取って行きたいと思っています。

渡辺ジョセリン

1961年フィリピン共和国カピテ市生まれ。大学を卒業後82年から95年までフィリピン工業大学で化学の講師を務める。その間88年に(財)横浜市国際交流協会の研修生として、また93年に(財)アジア学生文化会館の研修生として来日。(財)海外技術者研修協会で日本語を学ぶ。95年に日本人と結婚して現在東京都在住。

あちこち 日本語 ご紹介

国内編



福井県
福井市

外国人にとって「住みやすさ日本一」を目指して

財団法人 福井県国際交流協会
高嶋起代子

はじめに

16年ほど前、福井市で小さな日本語ボランティアの会が生まれました。名前は「日本語の輪を広げる会」。現在では福井県国際交流会館で、約40名の会員が、年130名以上の外国人に個人・グループレッスンをしています。会員は、当協会の養成講座を終了した人たちで、日本語教育能力試験に合格した人も数名含まれており、入門から上級まで幅広いレベルの学習者の求めに応じています。

日本語指導ボランティア養成講座

当協会では、平成元年より県内各地で、市町村と共催で基礎講座と専門講座を開催し、ボランティアを養成しています。講座の内容は、基礎講座50時間、専門講座5時間で、日本語教授法、ボランティアの心構え、異文化理解、社会事情、地域での日本語教育などです。幅広い視野を持って、草の根レベルで貢献していただける人材養成に力をいれています。

こうした取り組みの結果、県内日本語の団体は、福井市の3団体を含め11団体に増えました。各団体は、市町村の協力を得て、公民館や生涯学習センター、図書館、市の国際交流協会などで活発に活動しています。



今年3月に行われた日本語指導ボランティア養成専門講座。幅広い視野を持ち、草の根レベルで貢献できる人材養成に力を注ぐ

日本語常設講座について

平成12年度末で、福井県の外国人登録者数は12,344人で、福井県の総人口約83万人の約1.5%を占めています。都道府県別の人口比では、12番目になります。2000年の国勢調査の結果、県の人口増加分の8割が外国人登録者数の増加分であり、数字の上で国際化が進んでいることを示しています。近年は、日系人や技能研修生の中国人、ベトナム人、インドネシア人の増加が目立っています。

このような状況のもと、当協会では滞在中長期化する外国人に対する生活支援事業の一つとして、火、木の夜、土曜日の朝、各2時間、初級1～4レベルの無料の日本語常設講座を実施しています。1年間を3期にわけ50時間で初級を修了しています。プレメントテスト、学期末テスト、アンケートなどを実施し、ニーズに合った学習内容、効率の良い学習環境作りに努めています。講師は教材や教案作成に工夫をこらし、かなりの時間をさいて準備をしているようです。講師は、130時間以上の授業経験と研修を受けたボランティアが担当しています。受講生の一人アリさん（インドネシア出身の企業研修生）は、日本語ボランティアについて次のように語っています。「自分達の言語を分かち合い、教えようとする気持ちは、出会うすべての外国人にオープンな心で接しようとする態度の表れです。'Ready to give'は'Ready to accept'を意味し、それには広い心と思いやりが要求され

ます。そして、それは偉大なことです。」



日本語常設講座の一幕。講師は、130時間以上の授業経験と研修を受けたボランティアが担当

日本語ボランティアの連携講座

県内の日本語ボランティア団体が連携を深め、会員相互の資質の向上を図ることを目的に今年から日本語ボランティアと大学の連携講座を実施しています。福井大学日本語教育担当の中島清教授に協力を依頼し、今年の6月と8月に実施した講座には6団体の会員が集まり、相互の情報交換、日本語指導上の悩みや疑問点を出し合うなど打ち解けた雰囲気の中、連携を深めることができました。日本語ボランティア団体と地元の大学の日本語専門家が共働する取り組みに参加者は、大きな期待を寄せています。

さらに、今年、福井県は文化庁委嘱日本語教育指導員研修地域に指定されました。この研修を連携講座と連動して今後の日本語教室の活動を、より有意義なものにしたいと思っています。

財団法人 福井県国際交流協会 お問い合わせ先

住所：〒910-0004 福井市宝永3丁目1-1

電話：0776-28-8800 FAX：0776-28-8818

担当：高嶋起代子

<http://www2.interbroad.or.jp/fia-net/>

あちこち日本語ご紹介

海外編



モンゴル
ウランバートル

近くて遠い国、モンゴルの日本語事情

財団法人 松戸市国際交流協会
浦田光雄

関西国際空港から4時間、モンゴル国の首都ウランバートル市のボヤントオハ一空港（標高1,400m）に到着します。私の友人にそのことを話すと、「日本とモンゴルはそんなに近いのか!」と驚かれました。事実日本とモンゴルはとても近いのです。時差は僅か1時間です。

しかし、多くの日本人にとっては心理的距離が遠いのでしょうか。中国の一部となっている「内モンゴル自治区」と混同している人もいました。残念ながら多くの日本人の目は、今でも欧米諸国や大國に向けられているようです。アジアで最も親日的な国の一つ「モンゴル国」は集合写真を見たとき、どれが日本人でどれがモンゴル人かを正しく言い当てられる人がいないくらい容貌が似ており、赤ん坊のお尻にはどちらも蒙古斑がある、相撲が国技である等共通点の多いお国柄なのです。ウランバートルの町には日本からのODA援助によるバスが多く走っていますが、それらの横腹には日・両国の国旗とODA援助による旨が描かれています。

そういう理由だけではないでしょうが最近モンゴルの若者の間では日本に行こうという人が多く（3カ月の短期ビザで日本へ行ったことのある学生は2、3割いました）、日本語学習熱はかなり高いと言えます。1992年に共産主義と決別し「モンゴル国」として独立して以来、私立の学校が認められ、いくつもの私立大学や日本語学校が設立されました。

それらの大学には殆ど日本語の学科があり、今では公立の中学校で日本語教育を行っているところもあります。私が（財）日本シルバーボランティアーズから派遣されて1年間日本語を教えた私立

の「ソヨルエルデム（文化教育）大学」は、始め日本語学校であったものが5年前大学に昇格し、2回目の卒業生を出したところです。

モンゴルの学校制度は4・4・2・4制で14年間、日本の6・3・3・4制に比べ2年短いのですが、飛び級制度があるなど特色があります。幼稚園（日本で保育所）が完備し、女性も気兼ねなく社会進出している国なので、子どもを持つ母親が大学で学ぶのは別に珍しいことではありません。飛び級で進んできた学生は16歳、一方子どもを抱えて（中には3人も子どもがいる学生もいます）学ぶ



ウランバートルの中心、スフバートル広場での氷祭りにて。大学の学生、教師、その家族達とともに撮影（左から3人目が筆者）

学生は28歳、同じクラスで机を並べるという状況が生まれます。大家族制度がこれを支えているということも考えられます。毎朝大学へ出勤する途次の幼稚園には、おじいさんやおばあさんに手を引かれていく子どもたちを多く見かけました。

私のいた大学では、1年生が初級、2、3年生が中級を学んでいました。4年で上級というところです。この大学に限らず総体的に日本語教育のレベルはそれほど高いとはいえません。日本の大学で昔日本語教育を始めようとした頃のレベルではないかと想像しています。教師の資格はモンゴル人の場合は日本語教師

養成の大学で所定の単位を修得した者ですが、日本人の場合は日本の大学の学部を卒業していれば教育省が認めます。人材不足が理由の一つなのでしょう。私は1年間教えてみて、気づいたことを大学にいくつか提案してきました。

例えば、1年生については初級日本語の時間数を増やして基礎をマスターさせ、テキストには「みんなの日本語」を使う、2年生も中級の時間数を増やして2年生の間にマスターさせるなどです。

学生（と言っても孫に近い年齢ですが）とは大変仲がよくなり、一緒にスキー、ハイキング、川遊びなどに出かけました。私の誕生日には心のこもったお祝い会も開いてくれました。日本に戻った今でもEメールで交流しています。ちなみにEメールはモンゴルでも大はやりです。ウランバートル市内には「インターネットカフェ」が随所にあります。

学生とつきあって最も困ったことはなかなか彼らの名前が覚えられないことです。モンゴル人には苗字が無く、その上大多数の名は二

つの言葉を組み合わせられており、その構成語が共通している場合が多く、更に同名の学生は大学に何人もいます。私は2、3、4年生すべてに教えていたので、相手の数も多く難儀しました。

澄みきった空、満天の星、阿蘇の草千里ならぬ草万里、広々とした大草原、観光客が想うモンゴルは現実に存在しますが、モンゴルの学生たちの思い描くことは、いかにして昔日の栄光と繁栄を取り戻すか、ということであるようです。教室の黒板に「大モンゴル国」と学生が書いていたことに彼らの思いがうかがわれました。

教材紹介

- 『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ』
- 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
- 『日本語教育のための誤用分析 - 中国語話者の母語干渉20例 - 』



『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期（既刊） / 中級後期（既刊） / 上級（12月刊行予定）』

安藤節子

1. 内容中心・情報発信型の教材を初級終了段階から

本書は、勉学・研究のために日本語を学ぶ人が、日本語を使って調査や発表を行う中で運用力を伸ばしていくことを目的とした、内容中心で情報発信型の教材です。留学生およびこれから留学生になろうとする人に適したテキストと言えましょう。

本教材には、中級前期、中級後期、上級（「上級用資料集」と共に12月に刊行予定）の3つのレベルがありますが、上級や中級後期だけでなく、中級前期つまり初級が終わった段階からトピックに注目した内容中心の授業を実施することができます。成人としての知的好奇心を満たすことは、日本語力に関わらず必要かつ重要なことです。

2. 各レベル5トピック

トピックは、多様な側面を包括したもので、国を越えて共有できる今日的话题を中心に各レベル5つずつ選びました。

中級前期：「旅行」「いつ、どこで買う？」「祭り」「贈り物」「マスメディア」

中級後期：「教育」「ことば」「コミュニケーション」「昔話」「住宅」

上 級：「食文化」「宗教と生活習慣」「リサイクルからサイクルへ」「仕事」「ジェンダー」

3. 授業の流れ

一連の教材では、学習者自身が興味・関心のあることにテーマを絞って、アンケート、インタビュー、文献・インターネットなどによる調査をし、原稿を書いて、口頭発表や冊子作りでアウトプットを行います。授業の流れは図1のようになります。

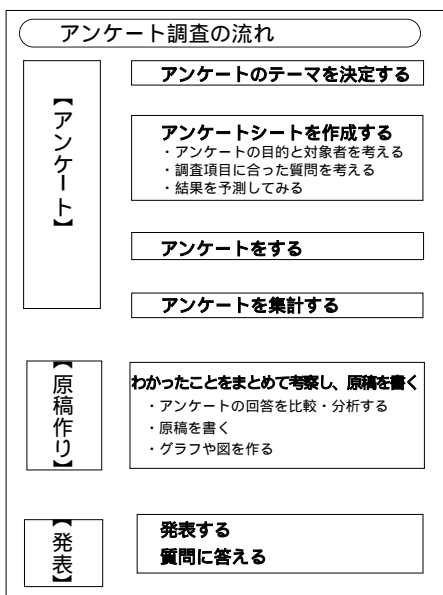
[図 1]

例 1 : 導入	グラフ情報	読み物	アンケート調査	口頭発表
例 2 : 導入	グラフ情報	読み物	書物などの調査	文集作り

図2は、中級後期「教育」の課にあるアンケートの手順を示したページです。「アンケートシートを作成する」「ア

[図 2]

ンケートをする」「発表する」などの具体的な進め方は、巻末の「調査・発表のための手引き」に示されています。「調査・発表のための手引き」は、自律的な授業運びのためのサンプルとして用意したものであり、その部分が本書の特色でもあります。



4. 達成感と動機づけ

上記のような授業活動を通して、学習者が自国・自分自身のことについて他国（日本など）との比較をしながら意識的に捉えなおし、自分の国のことや自分の考えを日本語で発信することができるようになり、学習者に達成感を与えます。それが次のステップへの動機づけになっていきます。

トピックによる日本語総合演習

テーマ探しから発表へ

中級前期

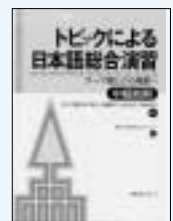
B5判 120頁 1,500円

佐々木薫・田口典子・安藤節子・赤木浩文・草野宗子編著

中級後期

B5判 120頁 1,500円

安藤節子・田口典子・佐々木薫・赤木浩文・鈴木孝恵編著



中上級を教える人のための 日本語文法ハンドブック

A5判 600頁 2,400円

白川博之監修

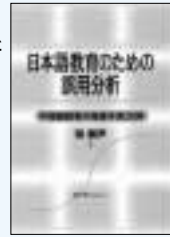
庵 功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘著



日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例

A5判 240頁 1,800円

張 麟声著



『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 文法は初級で終わりじゃない！

岐阜大学教育学部 助教授 山田敏弘

本書は『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』の続編として中上級の日本語教育で教えられる(べき)文法項目を解説したものです。「これだけは」「もう少し」「もう一歩進んでみると」と3段階でステップアップしていただけますので、授業前の時間がないときから研究を進めたいときまで目的に応じて読んでいただけます。

中上級の文法の特徴は、まず第一にいわゆる表現文型などと呼ばれる語彙的な項目が多いことです。特に中上級ではモダリティ表現や格助詞と似た働きをする複合表現が多く出てきます。たとえば「によって」「を通じて」「をもって」は「で」の働きを一部を負担する点で似ていますが、相互にも、また「で」とも異なる特徴を持っています。本書では文法形式の意味・用法を既習の表現や類似した意味を持つ表現との比較を中心に整理し、切り離された語彙的表現としてではなく文法的な位置づけをわかりやすく示しています。

中上級の文法における第二の特徴は一つの表現に多様な用法

があることです。受身、指示詞、名詞修飾表現などは形としては一つですが、他の言語にも存在する比較的容易な用法から学習者にはややわかりにくい周辺の用法までを含んでいます。本書では談話や場面ごとの使用に配慮しながら複数の用法を体系的に整理しわかりやすく解説しています。

第三の特徴は中上級では複数の文法項目どうしが結びついて学習者にとってわかりにくい表現となっていることがあることです。自動詞や他動詞は単にその語形や用法を学習しても使えません。他動詞の受身形は自動詞とどのように違うのか、自動詞と他動詞の可能形が似た用法を持つのはなぜかなどを考慮に入れて考える必要があります。本書では単独の文法項目を学習するのではわからない、かゆいところに手が届く解説を心がけました。

中上級を教えるときにほしかった知識とその「種明かし」が詰まった一冊です！

『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例』

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学部 教授 張 麟声

習った外国語を使って話したり書いたりするときには、その会話や文章に適切ではないところが見られるものです。言語教育の世界ではこれらを「誤用例」と呼んでいます。その誤用例は決して無秩序なものではなく、多くの場合、ある体系をなしています。

このような体系性を支えている要素には二つあると言われ、一つは一般的な認知能力、もう一つは、人がそれまでに持っている言語の知識、特に母語の知識です。"dog"は「犬」、"is"は「です」といったように、私たちは母語を通して外国語を理解していくことが多いですが、その際、外国語と母語の間の類似性にだけ目が行き、その背後に隠れている違いは見落とされがちです。また、外国語の知識が十分でない場合は、その時々頭に浮かんだものを生かして用を足していますが、それも実はほとんどが母語の規則なのです。このような理由で私たちが使っている「外国語」にそれぞれの母語の影が落とされているの

も無理のない話なのです。

だからと言ってその適切ではないものをそのままほっておいていいというわけではありません。現に多くの教師がいかに学習者の誤用を少なくしていくかということに苦心していますし、また、多くの学習者も何とか自分の日本語を少しでもより日本語母語話者のものに近づかせたいと頑張っています。こういった方々の努力にいささかでも役立てたいと執筆したのが本書です。

本書は筆者自身の20数年にわたる日本語学習、日本語教育活動を通して気がついた中国語母語話者に見られる文法的誤用の傾向の一部を20のトピックに絞ってまとめたものです。

中国人母語話者を指導する方々、また、日本語と中国語の違いに興味のある方々に読んでいただければうれしく存じます。

なんでも情報

BOX



セミナー

SEMINARS



『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』発刊にあたっての説明会
大阪会場（東京会場は終了しました）
著者による上記新刊の説明と文法講座を行います。

日時：11月10日（土）14：00～15：30
講師：高梨信乃（神戸商船大学商船学部専任講師）
会場：天満研修センター
530-0034 大阪市北区錦町2-21 TEL:06-6354-1927
定員：100名（先着順）
申込締切：11月5日
参加費：無料
問合せ/申込み：スリーエーネットワーク講座係
TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197
E-mail:ja-net@3anet.co.jp
101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3
主催：スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級』神戸セミナー

日時：12月1日（土）13:30～16:30
講師：田中よね（教科書執筆協力者）
会場：兵庫県立のじぎく会館大会議室
650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号
TEL:078-242-5355
交通：JR元町駅西口下車北へ徒歩10分
定員：120名（定員になり次第締め切ります）
申込締切：11月20日（火）
参加費：500円（当日納入）
申込み：住所、氏名、電話番号を明記の上、郵送、FAX、E-mailでお申込み下さい。
問合せ/申込み先：長嶋昭親
655-0884 神戸市垂水区城が山5-6-1
TEL：090-3161-6046 FAX：078-752-8415
E-mail：buadu406@hi-net.zaq.ne.jp
主催：兵庫日本語ボランティアネットワーク

『新日本語の中級』『日本語中級J301』『日本語中級J501』福岡セミナー

日時：12月1日（土）12:30～16:30
講師：春原憲一郎（〔財〕海外技術者研修協会）
関正昭（志学館大学）
会場：ももちパレス（福岡市）小ホール

ほん

BOOKS

		本誌に表示した価格は税別です。	
みんなの日本語初級 B4サイズ絵教材	発売中	36,000円	
みんなの日本語初級 書いて覚える句型練習帳	発売中	1,300円	
教大家の手引き 漢字英語版	発売中	2,800円	
	11月発売予定	1,800円	
新日本語の基礎	発売中	8,000円	7,000円
日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身 ボイス	発売中	1,300円	
中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック	発売中	2,400円	
日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例	発売中	1,800円	
トピックによる日本語総合演習	テーマ探しから発表へ	中級前期	
トピックによる日本語総合演習	テーマ探しから発表へ	中級後期	
	発売中	各1,500円	
トピックによる日本語総合演習	テーマ探しから発表へ	上級	
	12月発売予定	1,500円	
トピックによる日本語総合演習	テーマ探しから発表へ	上級用資料集	
	12月発売予定	2,000円	
日本語中級J501 英語版（改訂版）	11月発売予定	2,800円	
日本語中級J501 中国語版	11月発売予定	2,800円	
日本語中級J501 韓国語版	11月発売予定	2,800円	

TEL:092-851-4511
交通：地下鉄・藤崎下車 徒歩3分
定員：140名（定員になり次第締め切ります）
申込締切：11月22日（当日消印有効）
参加費：九日連会員200円、一般500円（当日納入）
申込み：住所 氏名 電話番号 所属 区別（九日連会員か一般か）を明記の上、葉書（1枚1名記入）にてお申込み下さい。（電話、FAXでの申込みは不可、また当日の受け付けはいたしません）
問合せ/申込み先：進はじめ
〒811-3221福岡県宗像郡福岡町若木台1-5-11（自宅）TEL&FAX:0940-42-6077
共催：九州日本語教育連絡協議会（九日連）
スリーエーネットワーク

初心者のための『みんなの日本語初級』の教え方

日時：『みんなの日本語初級』
12月1日（土）13：00～17：00
2日（日）10：00～13：00、14：00～17：00
『みんなの日本語初級』
12月8日（土）13：00～17：00
9日（日）10：00～13：00、14：00～17：00
* とも計10時間、講座案内をご請求下さい
講師：飯塚達雄（スリーエーネットワーク日本語講師）
会場：小社教室（東京都千代田区神保町1-64）
定員：各10名 費用：各15,000円
問合せ/申込み：スリーエーネットワーク講座係
TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197
E-mail:ja-net@3anet.co.jp

お知らせ

INFORMATION

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を進呈いたします。本誌をご希望の方は、お名前、ご住所、所属をFAX等で編集室までお知らせください。無料でお届けします（国内のみとさせていただきます）。
『Ja-Net』第20号は2002年1月25日発行予定です。

Ja-Netに関するアンケートへのご協力、たくさんのご返事ありがとうございました。皆様のご意見を今後の誌面作りに反映させてまいりたいと思います。尚、当選者は図書券の発送をもって発表に替えさせていただきます。

メールマガジン配信開始！

スリーエーネットワークでは皆様への新刊案内、各種セミナー等のお知らせをより充実させるために、メールマガジンの配信を開始いたします（無料、海外も可）。当面は、月1回の予定ですが、配信をご希望の方はメールアドレス、お名前、所属等（ある方のみ）を明記の上、下記のアドレス宛にお申込みください。またメールマガジンの内容に関するご意見、ご希望等もぜひお寄せください。お待ちしております。

メールアドレス

info@3anet.co.jp

Ja-Net 季刊 ジャネット No.19

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Africa)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2001年10月25日発行

発行人 小川 巖
発行所 (株)スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197
営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195
http://www.3anet.co.jp E-mail: ja-net@3anet.co.jp
日本印刷(株)

印刷

© 2001 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)